

学園の沿革 (略年表)

●安三 ●郁子 ◆学園全体 ◆短大・大学 ◆大学院 ◆中高 ◆幼稚園 ●学生活動

西暦	和暦	月 日	学園の沿革
1917	大正6	6 初旬	● 安三、日本組合基督教会により、大連を経て奉天(現・瀋陽)へ派遣される
		7 5	● 安三、瀋陽基督教会の伝道師となる。その後、児童館の運営にも関与
1918	大正7	5 28	● 安三、大連基督教会で横田美穂と結婚式
1919	大正8	3	● 安三、3月末に北京に移住。大日本支那語同学会で中国語を学ぶ
		5	● 5月以降、安三、雑誌『我等』のほか、『読売新聞』『大正日日新聞』などに、中国事情の紹介文などを寄稿
1920	大正9	8 秋	● 安三と美穂、北京訪問中の賀川豊彦と出会う。貧民救済活動について示唆を得る 日本の新聞で、中国華北地方の飢饉の報道さかん。日華実業協会(会長:渋沢栄一)を中心に募金活動開始
1921	大正10	1 春	● 安三、旱災児童救援活動開始。3月、朝陽門外の北京災童收容所長として活動。児童に読み書きを教える ◆ 帝国教育会から安三の救援活動への謝礼金。これを学校創設の資金の一部とする。学校の場所確保等について、中山龍次の援助があった
		5 28	◆ 太平倉に崇貞学校設立。授業は午前11時まで学課、12時から17時まで手工(学校名は崇貞工読学校とも称した)。教員2名。入学生徒20名以上
		8	◆ 田村新吉・森村市左衛門から崇貞学校に対し、各5,000円の寄付を得る(1930-1931年の校舎建築資金の一部となる)
		10 31	◆ 学校は太平倉から朝陽門外神路街賈家胡同に移転(同地で約10年間教育活動) ● 安三、災童收容所での活動に対し、北京政府徐世昌から勲五等嘉禾章を授与される
1922	大正11	1 29	● 安三、『北京週報』に論説を寄稿(1927年まで)。原稿料を学校運営に充当
		3	◆ 高木貞衛の寄付金1,500円で校地を購入
		4	● 小泉郁子、東京女子高等師範学校研究科で学び始める。10月31日、留学のため渡米 ◆ 崇貞学校創立1~2年後に、安三と賈和光(教員)が合同で校歌(「崇貞女校美如花」と始まる)を作詞
1923	大正12	3	◆ 魯迅の紹介で羅俊英を教師に招聘(羅は崇貞学園接収まで教員を務める)
		4	● 安三、大原孫三郎を案内し北京を巡る。大原の援助が清水夫妻のアメリカ留学につながる ◆ 北京政府の学制改革により「北京市私立崇貞小学校」と学務局に登録。学校は8月末に新学期で、2期制
		11 3	● 安三、大阪教会で接手礼を受け正教師(牧師)となる
1924	大正13	8 14	◆ 『基督教世界』に、「崇貞女学校創立三年記念」の写真が大きく掲載(外務省への申請書類では、学校名として「崇貞女学校」が1939年まで使用される)
		9	● 安三、オハイオ州オーバリン大学留学、美穂はサンフランシスコの学校で洋裁・手芸を学んだのち、安三と合流。この頃、安三は郁子と出会う
		9	● 安三、『支那新人と黎明運動』(大阪屋号書店、9月)、『支那当代新人物』(同、11月)を刊行。吉野作造が序文を寄せ、安三は中国問題評論家として関係者に知られる
1926	大正15	5	● 安三、オーバリン大学卒業。B.D.(神学士)受領。中国への帰路にハワイに立ち寄り、『日布時事』に連載記事。ハワイでの寄付金集めの糸口となる

資料

学園の沿革 (略年表)

●安三 ●郁子 ◆学園全体 ◆短大・大学 ◆大学院 ◆中高 ◆幼稚園 ●学生活動

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
1927	昭和2	3	19	● 安三、江西省九江にて北伐中の国民革命軍総司令・蔣介石に単独取材、『国民新聞』に記事掲載
		5		● 郁子、オーバリン大学卒業 (B.D.)。翌年6月ミシガン大学大学院 (教育学専攻) 修了 (M.A.)。9月、博士課程に進学し、1930年4月、日本に戻る
		8		● 安三、学校の資金調達のため、8月に日本に戻って『基督教世界』編集主任 (1年間)、翌月から同志社の講師。この後、折にふれて生徒たちの製作の刺繍を、軽井沢などで販売
		8		◆ 安三不在中、美穂は北京と日本と往復をくり返す。この間、学校は伊東豊作・矢野春隆の援助を受ける
1931	昭和6	3		◆ 3月頃の生徒数は約100名。卒業生数は112名で、中途退学者を入れれば500余名 (「崇貞女学校概要」による)
		4		● 郁子、青山学院女子専門部教授に就任 (1935年3月末まで)。小泉郁子『男女共学論』 (新教育協会、5月) 刊
		4		◆ 学校を芳草地に移転。1930年8月に10周年記念館上棟式があり、その後校舎2棟を建設 (建設資金には刺繍売上の収入も大きく、美穂の貢献多大)。裁縫品製作は校内にとどまらず、周辺地域にも及んだ
		4		◆ 従来から校内で実施されていた刺繍製作が盛ん。卒業生で1930年に同志社女学校を卒業した劉貴蘭、馬淑平が指導に当たる
1933	昭和8	3		● 安三、同志社大学講師を辞職。ほどなく近江兄弟社北京駐在員 (嘱託) となって北京 (北平) に戻る。メンソレータムの販売を推進 (駐在員は敗戦時まで)
		12	19	● 清水美穂が召天 (享年38)、西陣教会で告別式 (12月22日)、北京の学内校庭に墓を建立
1934	昭和9	8	8	● 郁子、ホノルル着。汎太平洋婦人会議に日本代表として出席。次期会長問題に対する中国代表の態度に接し、中国に関心を抱く。ハワイ各地で講演し、9月10日帰国
1935	昭和10	3	31	● 郁子、朝鮮・中国の諸大学を講演・視察旅行 (3月31日~5月18日)。安三の案内で崇貞女学校を訪問 (4月29日)
		7	7	● 安三・郁子天津教会で結婚式挙行。その後、郁子が学校経営に参画
		8	1	◆ 学園紙『支那之友』創刊。学園支援者に送付し、寄付金が次第に増加
		8		● 郁子、日本で開催された汎太平洋新教育会議で崇貞学園の労作教育について報告
1936	昭和11	5		◆ 奉天満州医大の医師が来校して、全校生徒の健康診断を実施
		10	17	◆ 清水夫妻、日本に戻り中学部校舎・講堂・科学館建設のため募金活動、3万円 (大原孫三郎から1万円、科学館は中山龍次の寄贈など) を集め、校舎等を建設、10月17日、盛大に落成式。学園・農場をあわせて7,000坪・新旧校舎8棟、小学部6学年生徒約120名、初級中学部生徒約40名、教職員16名となる
		10		◆ 『崇貞学園一覽』を『支那之友』特別号として刊行し、学校の歴史と現況を報告。崇貞学園の名称を使用 (ただし、外務省へのその届出と承認は1939年)。校門にも「崇貞学園」の看板を掲げる
		12		◆ 日本語の授業時間を週1時間から3時間に変更。留学希望組は毎日午後の手工の時間に食い込むほど熱心に学ぶ
12		◆ 生徒の自治会、毎週講演会を開催することを決定		
1937	昭和12	3		◆ 学園に理事会を設置、中華民国教育部に登録。理事長に南開大学総長張伯苓
		7	7	● 日中戦争開始。安三は生徒を帰宅させ、自らは校内にとどまる。日本人経営の学校だが、攻撃は受けず
		7		● 盧溝橋事件後7月末まで、安三は古都北京城内における日中両軍の軍事衝突回避のために尽力

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
1938	昭和13	3	25	◆ 国費留学生4名 (白玉琴、胡鳳春、肅淑英、徐静宜) が北京を出発。先行の趙慧珍と合流、近江八幡を経て東京の崇貞寮に移り、4月に女子大や女子医専に入学 (これ以前にも、単発的に留学した事例はみられた)。徐以外は、帰国後に崇貞教員となる
		5		◆ 長尾貞子赴任、体育教育の指導に当たる。学園の畑の3分の1を運動場に改造、グラウンドに200メートルトラック、テニスコート、籠球コートを整備
		9	1	◆ 日中戦争開始後の生徒数増加を受け、学園中学部開校、1年生入学者70名。小学部入学者170名で、男子学級も設置 (男子入学者31名)。小中の計240名。教員数15名
		9		◆ 寄宿舎の棟寮完成 (校地に隣接した民屋・土地を2,200円で購入、3,000余円で改修工事)、寄宿生20名。清水夫妻は棟寮に転居し、1945年の学園接収まで居住。それまでの住居 (近江兄弟社所有) の一部を北京日本人教会に改装
		10		◆ 10月頃、学園に医療班を開設、週一度校医の来診、簡単な手当は医療班委員 (指導教員1名) が対応
		11	3	◆ 第1回体育大会開催、300名以上の来観者
1939	昭和14	11		◆ 外務省文化事業部に体育館建設の補助金申請。翌年2月、体育館第1期工事 (中央本体部) 着工、9月15日竣工 (3年間、3万5,000円の補助金支給を受け、経常費の補助の受給も始まる)
		秋		◆ 中学部自治会の発議で購買部 (日用品・学用品の販売) 設置し、収益を自治会に
		1	10	◆ 北京市天橋にセツルメント「天橋愛隣館」 (日本基督教連盟時局奉仕会婦人部) 設立。館長 (安三)、現地委員長 (郁子) となり、その経営に従事 (1945年8月まで)。愛隣館には愛隣館医院を開設し診療開始。また、授産部・教育部も開設。5月26日、開館式。また、このあとも学校近隣の土地を購入し、校地拡張を図る
		2	22	◆ 『東京朝日新聞』『読売新聞』に、清水の伝記とその英訳の刊行予定が報道され、安三が「北京の聖者」として紹介される
		3	20	◆ 第2次選抜留学生4名 (劉淑訓、魏玉琮、李淑恵、杜秀清) が日本に向け出発。劉は帰国後に崇貞教員
		4	11	◆ 崇貞学園日本女子中学部 (日本人部) 開設。生徒は朝鮮人も含めて25名
1940	昭和15	4	15	● 安三『朝陽門外』 (朝日新聞社) 刊行、ベストセラーとなる。印税は学園に寄付される
		4		◆ 「崇貞女学校」から「崇貞学園」への改称を対支文化事業部に届出で、承認される。崇貞学園の所管は、外務省から興亜院に移管
		6	17	◆ 李王来園あり、学園施設・朝鮮人生徒の様子を案内
		9	15	◆ 王雨生の1万2,000円の寄贈により図書館建設。9月15日学園に引き渡し。同日、新校舎 (2階建て8教室) が完成
		10	6	● 安三、崇貞学園募金のため、北京を発つ。南京・上海・台湾など各地で講演ののち、12月末に横浜から渡米の途につく
		11		◆ 大阪・岸和田に「愛隣会」を組織していた山岡春が、崇貞学園と愛隣館への寄付を継続的に行うなど、支援者が増加
1940	昭和15	12	3	◆ 北京市日本居留民団公会にて、学園文芸会開催、劇「春香伝」「桜井の別れ」、舞「狸囃子」「国境の町」など22のプログラムで盛況、300名以上の入場者、新聞に「踊る日華の青春」題して報道される。収益700円は特別奨学金・教員互助金に
		1	5	● 安三、ホノルル着、ハワイ各地で講演しつつ、『日布時事』に精力的に連載記事を寄せる。3月1日、ハワイを出発、アメリカ本土へ。各地で募金活動。6月24日、ニューヨークを発ち7月末に横浜着
		3	2	● 美穂の伝記『大陸の聖女』 (松本恵子著、鄰友社) 刊行
		3	17	◆ 第3次選抜留学生5名 (李恵徳、劉祥明、錢亜栄、連華、徐志芳、賈淑敏) 日本へ出発
		4		◆ 崇貞教職員は日本人11名、中国人16名、米国人1名
		5	15	◆ 2万1,000円の下付金で体育館第3期 (体育館付属設備) 工事。5月15日体育館落成。6月30日、学校の近隣住民向けに、体育館で日本紹介の映画上映
7		● 安三、北京帰着。在北京の日本憲兵隊によりドル買の疑いで取調べを受ける		
11		◆ 『支那之友』発行部数5,000部と誌面にて報告		

学園の沿革 (略年表)

●安三 ●郁子 ◆学園全体 ◆短大・大学 ◆大学院 ◇中高 ◆幼稚園 ●学生活動

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
1941	昭和16	12		◆ 宮内省より崇貞学園・愛隣館の双方に御下賜金が授与される
1942	昭和17	3		◆ 日本人部生徒2・3年生24名、12日間の大陸見学の旅行(引率安三、星子等)
		3	28	◆ 日本人中学部第1回卒業式、卒業生12名。1名東京遊学、1名本校補習科に、2名本校助教、3名就職、3名家庭に入った
		4	8	◆ 生徒500名。その民族比は中国人270名、満州人100名、回族50名、日本人・朝鮮人80名で、「民族協和」を实行。日本女子中学部入学式、新入生31名
		春		◆ 購買部の発展のため、1,700円を投じて購買館を校内に建築
1943	昭和18	3	25	◆ 日本人中学部、崇貞日本高等女学校として正式に認可。これが桜美林学園の迅速な認可の前提となる
		3		◆ 昭和17年度年度末の生徒数(以下、小学部、中学部、日本人部の順)新入生(60名、49名、28名)、編入生(14名、4名、4名)、退学者(23名、22名、20名)、卒業生(初小33名、高小40名、中高14名、旧3年制4名。年度末生徒総数(379名、57名、71名)
		3		◆ 年度末教職員数27名。華系教員17名、日系教員10名、工役者5名(学校2名、宿舎2名、農夫1名)
1944	昭和19	3	5	◆ 崇貞日本高等女学校第1期生卒業式
		春		◆ この頃、多数の朝鮮人学生受け入れに鑑み、李王家より御下付金を受領、朝鮮人学生の学資金に充てる
1945	昭和20	8	15	● 日本敗戦。安三、朝鮮人生徒達に日本人の罪を謝罪、朝鮮国の独立万歳を叫ぶ
		8	20	◆ 始業式・入学式挙行。安三、中国人生徒に最後の講話。なぜ中国は日本に勝利したかを話す
		11	8	◆ 北平市政府教育局により、崇貞学園、愛隣館ともに接収される。接収された建造物22棟、敷地1万4,000坪、現金、書籍など物品。10日、清水夫妻は学園を離れ、城内の寮に移動
		12	15	● 郁子は「前私立崇貞小学校、女子初級中学校董事」名義で、国民政府主席・蔣介石宛に学園存続を求める陳情書提出。崇貞学校は中国政府の認可を得た私立学校であると力説
1946	昭和21	3	15	● 清水夫妻、中国を離れ日本へ。3月19日山口県仙崎港に上陸、22日東京着、焼け野原で祈る
		3	24	◆ 賀川豊彦から、東京都南多摩郡忠生村大字木曾にあった片倉組所有の元相模陸軍造兵廠工員用寄宿舎を紹介され、清水夫妻はそこに学園設立を決意
		4	10	◆ 文部省に桜美林学園設立を申請
		5	5	◆ 桜美林学園開校。学園長に郁子が就任
		5	29	◆ 財団法人桜美林学園設立認可。桜美林高等女学校(英文専攻科)設置認可。初代理事長に賀川豊彦が、初代学園長に郁子が就任
		秋		◆ キリスト教学校教育同盟に加盟
1947	昭和22	3	20	◇ 新制桜美林中学校設置認可。同年4月、共学の中学校として開設。初代校長に郁子が就任
1948	昭和23	3	10	◇ 新制桜美林高等学校設置認可。これに伴い旧制高等女学校を廃止する。同年4月、共学の高等学校として開設。初代校長に郁子が就任
		3	28	◆ 桜美林教会(復活の丘教会)設立
		4	1	◇ 高等学校別科洋裁科設置認可
1949	昭和24	5	1	◆ 賀川豊彦の短歌集『銀色の泥濘』が桜美林学園出版部より発行。その利益は学園に寄附された
1950	昭和25	3	14	◆ 桜美林短期大学英語英文科設置認可。同年4月開設。初代学長に安三が就任
		5		◇ 高等学校野球部創立
		9	1	◆ 『桜美林タイムス』創刊

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
1951	昭和26	2	27	◆ 財団法人桜美林学園から学校法人桜美林学園への組織変更認可
		3		● 校舎建築資金などを得るため、安三と郁子は募金活動を北米・南米で行う。1953年3月に帰国
		4	1	◇ 第2代中学校長に川上ヨシが就任
1953	昭和28	9	1	◇ 第2代高等学校長に川上ヨシが、第3代中学校長に郁子が就任
1954	昭和29	2	1	◆ 第2代理事長に小崎道雄が就任
1955	昭和30	1	22	◆ 短期大学の家政科設置認可。同年4月に開設
		5	26	● 安三、アフリカ系アメリカ人との混血児の育児院・聖保羅育児院創立
		8	1	◆ 学園誌『復活の丘』発刊
1956	昭和31	1	22	◆ 学園に生協が創立
1957	昭和32	4	27	◆ 第1回同窓会総会開催
		4		◇ 中学校・高等学校に制服を採用
1958	昭和33	3	8	◆ 卒業式挙行中に発生した火災により講堂、食堂が焼失
		3	31	◇ 高校校舎として旧・明々館第1期工事竣工(最初の鉄筋コンクリート校舎)
				◆ メイングラウンド完成
		3	31	◆ 新校歌誕生(作詞:清水安三、作曲:小川留三)
1959	昭和34	3	8	◆ 旧チャペル(旧・荊冠堂)竣工。初めてスクールバス購入
1960	昭和35	3	30	◇ 旧・明々館第2期工事竣工
1962	昭和37	3	30	◆ 短大校舎として亦説館第1期工事竣工
		9	29	◆ 崇貞寮(短大女子寮)竣工
		11	3	● 安三、一般社団法人日本善行会より善行銅章受章
1963	昭和38	2	1	◇ 第3代高等学校長に橋本英雄が就任
		3	30	◆ 亦説館の第2期工事(旧・学而館)竣工
1964	昭和39	4	1	◇ 第4代中学校長に宗像完が就任
		6	24	● 郁子が召天
		6	25	◆ 第2代学園長に安三が就任
		12	11	◆ 旧・学而館の第2期工事竣工
1965	昭和40	6	10	◆ 時習館(旧図書館)竣工
		10	7	◆ 文哉館(学生食堂)竣工
		11	30	◆ 有々館(特別教室)竣工
		12	1	◆ 太平荘(大学女子寮)竣工
				◆ 一畝園(大学校舎A~D)竣工

学園の沿革 (略年表)

●安三 ●郁子 ◆学園全体 ◆短大・大学 ◆大学院 ◇中高 ✦幼稚園 ●学生活動

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
1966	昭和41	1	25	◆ 大学文学部(英語英米文学科、中国語中国文学科)設置認可。同年4月に開設。初代学長、初代文学部長に安三が就任
		4	15	◆ 第1回大学入学式を挙行
		4	29	● 安三、勲三等瑞宝章受章。受章理由「教育に専念し教育文化の発展に寄与した」
		7	15	◆ 教員・生徒・学生・海外からのボランティアによってコンクリートブロックを積み上げた手造りの教会「桜美林教会(復活の丘教会)」が完成
		9	5	◆ 更賜体育館竣工
		11	23	◆ 創立20周年記念式典挙行
1967	昭和42	3	20	◆ 真珠館(短大家政科校舎)竣工
		3	30	◇ 高校野球部春の甲子園選抜大会に初出場
		4	1	◆ 桜美林教会(復活の丘教会)竣工
		6		◆ 桜美林東京クラブ開設
		10	31	◆ アロハ寮(短大女子寮)竣工 ◆ 第1回学園祭(現・大学祭)開催
1968	昭和43	2	28	✦ 旧幼稚園園舎(第1期)竣工
		3	15	◆ 大学経済学部(経済学科)設置認可。同年4月に開設。初代経済学部長に高谷道男が就任
		3	28	✦ 桜美林幼稚園設置認可。初代幼稚園長に安三が、主任保育者に松本良子が就任
		4	1	◇ 旧・大志館(高校校舎)、旧・立志館(中学校舎)竣工
		4	1	● 桜美林大学・短期大学体育文化団体連合(OACU)誕生
		6	1	● 安三、オーパリン大学(米国)より名誉神学博士号授与
		10	7	● 安三、一般社団法人日本善行会より銀章受章 ● 大学アメリカンフットボール部創部
1969	昭和44	3	31	◆ 研究棟C竣工
		6	30	◆ 片瀬桜美林ハウス(伊豆桜美林セミナーハウス)竣工
		9	12	◆ 全学共闘会議二十数名による文学部研究室バリケード封鎖事件が発生(同月23日に自主解除)
		12	24	◆ 寮寮で出火、四、五両棟、清安寮を焼失
1970	昭和45	2	3	◆ 短大にて第1回推薦入学審査が実施
		4	1	◇ 第5代中学校長に小川留三が就任
		6	1	◆ 三到図書館竣工
		8	29	● 安三、韓国を訪問。ソウルの王宮にて崇貞学園同窓会を開催 ◆ 安三の住居「石ころ庵」完成。1972年8月に登記 ● 大学弓道部創部
1971	昭和46	3	31	◆ 旧本部棟竣工
1972	昭和47	1	28	◆ 大学経済学部(商学科)設置認可。同年4月開設
		3	30	◇ 賢良館(中学・高校特別教室)竣工
		3	30	◆ 以德館(大学用大教室)竣工
		5	31	◆ 其中館(大学研究室)竣工
		7	18	◆ 堤撕館(短大研究室)竣工
1973	昭和48	1	17	◆ 第3代理事長に安三が就任
		5	25	◇ 旧・薔薇寮(高校女子寮)竣工
		7	8	◆ 納骨堂「白玉塔」竣工

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
1974	昭和49	2	8	◆ 小諸山荘(浅間山荘)開設
		3	25	◆ 止戈徳館(武道館)竣工
		4	16	◆ 第4代理事長に田口敏三が就任
		6	29	◆ 第3代学園長に清水畏三が就任
1975	昭和50	3	31	◆ 待望館(大学大教室)竣工
		4	30	◆ 同窓会館竣工
		5	2	● 安三、同志社大学より名誉神学博士号授与
		8	1	◆ 『桜美林大学だより』発刊
1976	昭和51	1		● 安三、滋賀県新旭町町制20周年の記念式で、名誉町民(第1号)の称号が贈られる
		8	21	◇ 高校野球部、夏の甲子園大会に初出場し、全国優勝を遂ぐ。60年ぶりの東京勢優勝となる
		11	8	◇ 高校、創立30周年記念桜美林祭が開催
1977	昭和52	3	31	◆ 清友館(学生会館)竣工
		10	2	● 桜美林学園同窓会学園創立30周年記念事業・初代学園長清水(小泉)郁子記念碑(森野円像制作)除幕式
		10	7	● 安三、一般社団法人日本善行会より金章受章 ◆ 桜美林大学国際文化研究所設置
1978	昭和53	3	31	◇ 化楽館(中学・高校特別教室)、高校管理棟竣工
		11	2	◆ 本学初の公開講座「桜美林教養大学」を実施。町田市にとっても初
		12	4	◆ 桜美林大学産業研究所設置 ● 大学準硬式野球部創部
1979	昭和54	8	6	◇ 高校美術部、第29回全日本学生油絵コンクールで最優秀学校賞を受賞
		8	30	◆ 碩学会館(大学研究棟)竣工
		11	5	● 安三、日本キリスト教文化協会よりキリスト功労賞受賞
1980	昭和55	12	20	◆ 又賜体育館竣工 ● 大学陸上競技部創部 ● 大学男子バレーボール部、女子バレーボール部創部
		2		◆ 櫛の広場完成
		3	31	◆ 境川研修所(町田市矢部)開設 ✦ 幼稚園「わらじ教育」開始(足指で鼻緒をつまむことにより足指力の強化、土踏まずの形成、浮指の予防を目的)
1982	昭和57	3	27	◆ オペリンカレッジ(米国)との学術交流協定締結
		11	30	◇ 念書用功館(中学・高校学習センター)竣工
1983	昭和58	3	1	◆ LL館(短大校舎)竣工、新・桜寮(短大・大学女子寮)竣工
		3		◆ 桜グラウンド完成
		4	2	◇ 1978年度高校卒藤崎るつ記さん、フィリピン・ルソン島ボトラン海岸で溺れる現地女性を助けて召天、同年12月るつ記記念基金発足

学園の沿革 (略年表)

●安三 ●郁子 ◆学園全体 ◆短大・大学 ◆大学院 ◆中高 ◆幼稚園 ●学生活動

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
1984	昭和59	3	20	◆ 第4代高等学校長に村田幸郎が就任
		3	31	◆ 高校野球部雨天練習場完成
		8	19	◆ 高校女子剣道部全国高等学校総合体育大会(インターハイ)で初優勝
		10	15	◆ 老実館(中学・高校食堂、同特別教室)竣工 ◆ ベルを購入し、中高ハンドベルクワイヤー活動開始
1985	昭和60	10	30	● 安三、紺綬褒章受章
		12	11	◆ 初代桜美林学園総長に安三が就任
		12	11	◆ 第2代大学長に大野一男が就任
1986	昭和61	6	1	● 桜美林学園同窓会学園創立40周年記念事業・95歳の誕生日を記念した清水安三銅像除幕式
		8	5	◆ 高校美術部、第36回学展で最優秀学校賞受賞
		8	13	◆ 北京市朝陽中学(旧・崇貞学園)との交流開始
		9	11	◆ 東北師範大学(中国)との学術交流協定締結
		9	20	◆ 創立40周年記念祝典挙行
		12		◆ 学生部室E棟竣工
1987	昭和62	3	23	◆ 幼稚園新園舎竣工。モンテッソーリ教育遂行のための「お仕事の部屋」を設置
		4	1	◆ 第6代桜美林中学校長に村田幸郎が就任
1988	昭和63	1	8	◆ JR淵野辺駅と桜美林学園間の無料スクールバス運行開始、これに伴い従来の町田と学園間の大学・短大生用スクールバスの運行が全面停止となる
		1	17	● 安三、午後8時20分急性心不全のため召天(96歳7か月17日)。学園葬(1月30日)挙行
		4	1	◆ 第2代幼稚園長に高垣岬が就任
		4		◆ 崇貞寮が研究棟・教室として運用開始、「崇貞館」と改名
		4		◆ 町田市忠生に全室個室1Kマンション型女子学生寮「桜美林ハイツ」オープン
		5	16	◆ 第5代理事長に清水長三が就任
		5	16	◆ 第5代高等学校長、第7代中学校長に奥脇信久が就任
		11	26	◆ 川上ヨシ(元桜美林高等学校長)から、パイプオルガン寄贈
		12	22	◆ 大学国際学部(国際学科)設置認可。翌年4月に開設
		1989	平成1	3
4	1			◆ 第2代短大学長に三田宰子が就任
4	1			◆ 短期大学家政科を生活文化学科に改称
6	1			◆ 旧・学而館地下教室を図書館分室として改装、開館 ◆ 三角グラウンド(旧・弓道場、旧・テニスコート。現・三角駐車場)完成 ◆ 学内食堂が相次いで開設。ローズホール(6月4日)、文哉館食堂(10月2日) ● チアリーダー部創部(1997年にチアリーディング部に改称)
1	2			◆ ノースカロライナ大学シャーロット校(米国)との学術交流協定締結
1990	平成2	6	1	◆ 忠生ゼミハウス完成
		7	20	◆ 薔薇寮(高校女子寮、後の忠生第2ゼミハウス)竣工
		4		◆ 矢部町高校野球室内練習場南西に全天候型テニスコートが完成
1991	平成3	5	31	◆ 復活の丘に川上記念教育館竣工
		8		◆ 桜美林学園家族修養会が初めてオペリン大学(米国)を訪問
		9	16	◆ 創立者生誕100周年および桜美林学園創立45周年を記念し、特別記念リ・ユニオンに500名集う

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
1992	平成4	3	23	◆ 現・大志館(高校校舎)竣工
		9	2	◆ 長く存在が不明だった愛隣館の建物が北京天橋の自然博物館内に確認される
		9	17	◆ カンザス大学(米国)との学術交流協定締結
1993	平成5	3	19	◆ 大学院国際学研究所国際関係専攻(修)、環太平洋地域文化専攻(修)設置認可。同年4月開設
		4	1	◆ 桜美林大学国際学研究所設置。翌年より活動開始
		8		◆ 第11回若潮旗争奪全国高校剣道大会にて女子高校剣道部優勝 ● ソングリーディング部がサークルとして創部
1994	平成6	4	22	● 安三生誕地・滋賀県新旭町に「生誕地記念碑」が建立・除幕式
		8		◆ 第12回若潮旗争奪全国高校剣道大会にて女子高校剣道部優勝(2連覇)
		10	24	◆ 太平館(大学校舎)竣工
		10	25	◆ ウロンゴン大学(オーストラリア)との学術交流協定締結
		11	15	◆ (財)大学基準協会相互評価申請に向けた『1994年度桜美林大学—現状と課題—自己点検評価に関する第一次中間報告書』発行
1995	平成7	1	30	◆ 清水美穂記念碑がLL館(現・サレンバーガー館)西側に建立・除幕式
		3	16	◆ 大学院国際学研究所国際関係専攻(博)、環太平洋地域文化専攻(博)設置認可。同年4月開設
		4		◆ 大学に博物館学芸員課程開設
		9	2	◆ 7月末に起きた八王子スーパーでの事件を受け、高校で追悼集会が開かれる ◆ 旧・ロードサイドグラウンド(現・学而館)完成
1996	平成8	4	1	◆ 第3代学長に佐藤東洋士が就任
		4	5	◆ 大学・大学院初の学外入学式(パルテノン多摩)挙行
		5	3	◆ 北京師範大学(中国)との学術交流協定締結
		5	29	◆ 創立50周年記念祝典挙行
		12	19	◆ 大学経営政策学部(ビジネスマネージメント学科)設置認可。翌年4月に開設
1997	平成9	3	3	◆ 桜美林大学大学教育研究所設置
		4	1	◆ 第3代幼稚園長に柳原鐵太郎が就任
		4		◆ 中学、男女共新制服スタート
		5	29	◆ 上海外国語大学(中国)との学術交流協定締結
		6	28	◆ 「桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクト」発足
		8		◆ 高校、第47回学展で最優秀学校賞
		9		◆ 教員有志による「安三・郁子研究会」(通称:安三研)発足
		10	25	◆ 第1回桜美林大学大学院同窓会を太平館で開催 ◆ 1997年度よりAO入試導入(当初は「自分推薦」として) ◆ 『平成9(1997)年度点検・評価報告書(相互評価)』を発行。この報告書を元に財団法人大学基準協会相互評価を申請。認証を得る
		1998	平成10	3
4	1			◆ 第8代中学校長、第6代高等学校長にヒックス・ジョーゼフが就任
8				◆ 高校野球部21年ぶりに夏の甲子園大会に出場、3回戦進出
9	28			◆ 首都圏西部大学単位互換協定を締結。大学・短大、県境越えての単位取得が認められる制度、東京・神奈川の18校が互換協定
10	24			● 大学・短期大学体育文化団体連合(OACU)30周年記念式典・パーティーを太平館で開催
12	10			◆ 北京大学(中国)との学術交流協定締結

学園の沿革 (略年表)

●安三 ●郁子 ◆学園全体 ◆短大・大学 ◆大学院 ◆中高 ◆幼稚園 ●学生活動

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
1999	平成11	2	28	◆黎明館(大学クラブハウス)と同志館(大学合宿施設)竣工
		8	3	●大学弓道部女子団体、第47回全日本学生弓道選手権大会で4年ぶり2度目の優勝(8月3日～5日)
		8	4	◆明知大学(韓国)との学術交流協定締結
		8	27	●大学チアリーディング部、JAPAN CUP 1999、部門別日本一決定戦で初優勝(8月27日～29日)
		12	22	◆大学文学部に新3学科(言語コミュニケーション学科・健康心理学科・総合文化学科)設置認可。翌年4月に開設 ◆淵野辺駅北側に桜美林専用のスクールバスターミナル完成 ◆沖縄県宜野湾市・沖縄国際大学、名護市・名桜大学と単位互換協定を締結
2000	平成12	3	31	◆短期大学初となる『桜美林短期大学自己点検・評価報告書 平成11(1999)年度』を発行
		3		◆栄光館(学園本部棟)竣工
		4	1	◆第6代理事長に大野一男が、第4代学園長に川村健爾が就任
		4	1	◆短期大学、生活文化学科募集停止
		7	12	◇細花高等学校(韓国)と姉妹校協定締結
		9		●大学チアリーディング部、JAPAN CUP2000優勝(連覇達成)
12	21	◆大学院国際学研究科に大学アドミニストレーション専攻(修)、言語教育専攻(修)設置認可。翌年4月に開設		
2001	平成13	1	30	◆韓瑞大学(韓国)との学術交流協定締結
		2	15	◆上海師範大学(中国)との学術交流協定締結
		4	1	◆第3代短大校長に岡村登志夫が就任
		4		◆新宿サテライト教室(大学院新宿キャンパス)を開設。現役の大学事務職員のリカレント教育の場として日本初の大学アドミニストレーション専攻開講
		7	26	◇現・立志館(中学校舎)竣工
		12	20	◆大学院国際学研究科に人間科学専攻健康心理学専修・臨床心理学専修(修)、老年学専攻(修)設置認可。翌年4月、開設。健康心理学専修は日本の大学院初 ◆GPA(成績平均値)制度を大学(全学部)で施行
2002	平成14	3	25	◆漢陽大学(韓国)との学術交流協定締結
		4	1	◆短期大学を桜美林大学短期大学部に改称
		4		◆桜美林大学加齢・発達研究所(2015年に「老年学総合研究所」に改称)設置
		4		◆臨床心理センター設置
		4		●横山正子講師(当時)の下、大学聖歌隊「桜美林大学クワイヤー」発足
		6	13	◆北京語言大学(中国)との学術交流協定締結
		8	4	●大学男子弓道部、第50回全日本弓道選手権大会で全国初優勝(8月4日～6日)
		8		◆現・崇貞館(大学教員の研究棟)竣工
		8		◇高校野球部、夏の甲子園大会4年ぶりに出場、2回戦進出
		9	30	◆相模原市教育委員会と共同で主催する第1回市民大学桜美林大学コースが相模原市総合学習センターで始まる
		10	28	◆短期大学部生活文化学科廃止

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
2003	平成15	2	24	◆華東師範大学(中国)との学術交流協定締結
		3	30	◆プラネット淵野辺キャンパス(PFC)竣工、同年4月開設
		4	1	◆大学と相模原市の図書館との相互利用が開始
		4		◆大学と神奈川県立高校協定締結。4月より高大連携制度導入へ
		4		◆『学びのコミュニティを求めて—桜美林大学自己点検評価報告書2002』を発行。別冊『教員総覧』(2003年2月発行)
		5	24	◆第7代理事長に佐藤東洋士が就任
5	24	◆大学経済学部(商学科)を廃止		
5	24	◆短期大学の第2次の自己点検・評価報告となる『桜美林短期大学部自己点検・評価報告書(第2回)』を発行		
5		◆『OBIRINER』創刊		
11	27	◆大学院国際学研究科老年学専攻(博)設置認可。翌年4月に開設		
2004	平成16	1	30	◆大学院国際学研究科に大学アドミニストレーション専攻(通信教育課程)設置認可。同年4月に開設
		3		◆桜美林大学パフォーマンス・インスティテュートが発足
		4	1	◆第5代学園長に柳原鐵太郎が就任
		4	1	◇第9代中学校長、第7代高等学校長に本田栄一が就任
		4		◆桜美林大学言語教育研究所設置
		4		◆大学院国際学研究科国際関係専攻(修)と環太平洋地域文化専攻(修)を国際学専攻(修)に統合。国際学研究科国際関係専攻(修)、環太平洋地域文化専攻(修)を募集停止
		5	12	◆大連外国語大学(中国)との学術交流協定締結
		6		●第16回全国大学弓道選抜大会で男女両部門優勝
		8		◆一粒館竣工、同時にスクールバス乗り場も変更
		8		◇中高美術部、学展最優秀学校賞受賞
		9		◆伊豆高原桜美林クラブ開設
		11		●大学女子弓道部、第28回全日本学生弓道女子王座決定戦で優勝
12	12	●第16回全日本学生チアリーディング選手権大会でDIVISION1・DIVISION2の両部門ともチアリーディング部優勝		
2005	平成17	3	30	◆北京市陳経綸中学(旧・崇貞学園)に安三の胸像建立・除幕式
		4	1	◆大学に総合文化学群を設置認可。同月開設。これに伴い文学部(総合文化学科)は募集停止
		4	1	◆短期大学部英語英文科募集停止
		4		◆eラーニング開講(首都圏西部大学単位互換協定会)
		7	15	◆桜美林学園ウェブサイト開設
		9	16	◆清友会館1階にコンビニエンスストアがオープン
		9		◆大学に日本語文化学院(留学生別科)を開設
10	25	◆ハワイ大学マノア校(米国)との学術交流協定締結		
11	1	◆桜美林大学孔子学院設立・調印式、日本全国で2番目、東日本では初。翌年4月に桜美林大学孔子学院(中国語特別課程)を開設		

学園の沿革 (略年表)

●安三 ●郁子 ◆学園全体 ◆短大・大学 ◆大学院 ◆中高 ◆幼稚園 ●学生活動

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
2006	平成18	1	18	◆ 同済大学(中国)との学術交流協定締結
		2	17	◆ アテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)との学術交流協定締結
		2		◆ 現・明々館竣工
		3	14	◆ クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学(ニュージーランド)との学術交流協定締結
		4	1	◆ 第4代短大校長に佐藤東洋士が就任
		4	1	◆ 大学に健康福祉学群、ビジネスマネジメント学群(ビジネスマネジメント学類)設置認可。同月開設。文学部(健康心理学科)、経営政策学部募集停止
		4	1	◆ 第4代園長に藤崎堅信が就任
		4		◆ 桜美林の英訳表記を「OBIRIN」から「J. F. Oberlin」とする
		4		◆ 大学に桜美林大学孔子学院(中国語特別課程)を開設
		5	27	◆ 学園創立60周年記念式典・帝国ホテルにて挙行。同月、記念行事として写真展「桜美林の記憶」(5月1日～12月20日、桜カフェ)と初公開となる資料展「資料に見る桜美林学園の60周年」(5月15日～25日、太平館ギャラリー)が開催
		7	20	◆ ロッテルダム大学(オランダ)との学術交流協定締結
		7		◆ 公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価受審に伴い『桜美林大学自己評価報告書』を発行
		8	21	◆ アリゾナ州立大学(米国)との学術交流協定締結
		8		◆ 大学と町田市教育委員会の間で教育連携締結
		9	2	◆ 短期大学開設56年で閉学、最後の卒業生3名に学位を授与
11	1	◆ 桜美林大学孔子学院「高島学堂」開設。調印式・開設記念講演及び除幕式挙行		
11	6	◆ 町田市と大学との連携に関する協定書を締結		
11	25	● 第30回全日本女子弓道王座決定戦で優勝(3連覇)		
12	25	◆ 北京外国語大学(中国)との学術交流協定締結		
2007	平成19	3		◆ 現・学而館(大学校舎)竣工
		4	1	◆ リベラルアーツ学群設置認可。同月開設。文学部(英語英米文学科、中国語中国文学科、言語コミュニケーション学科、言語コミュニケーション学科)、経済学部、国際学部募集停止
		4	27	◆ 短期大学部を廃止
		6	20	◆ 町田市と神奈川県相模原市の大学や企業、行政などが協力してまちづくりの事業を進める「相模原・町田大学地域コンソーシアム(共同事業体)」発足
		8	18	● 大学の準硬式野球部、第59回全日本大学準硬式野球選手権大会で初優勝(8月18日～8月23日)
		12	15	◆ 現・荊冠堂(チャペル)竣工 ◆ LL館をサレンバーガー館へと改称
2008	平成20	2	13	◆ サンフランシスコ州立大学(米国)との学術交流協定締結
		3	11	◆ 中学・高等学校、エマニュエルカレッジ(オーストラリア)との友好交流を目的とした姉妹校協定締結
		3		◆ 理化学館(大学校舎)竣工
		3		◆ 四谷キャンパス開設
		3	29	◆ 荊冠堂献堂・パイプオルガン奉献
		4	1	◆ 大学ビジネスマネジメント学群(アビエーションマネジメント学類)設置認可。同月開設
		4	1	◆ 大学院に老年学研究科老年学専攻(修・博)、大学アドミニストレーション研究科大学アドミニストレーション専攻(修)、大学アドミニストレーション研究科大学アドミニストレーション専攻(修)開設(通学型の従来の修士課程と通信教育課程を併設)。これに伴い、国際学研究科老年学専攻(修・博)、大学アドミニストレーション専攻(修)並びに国際学研究科(通信教育課程)大学アドミニストレーション専攻(修)募集停止
		4	1	◆ 第5代幼稚園長に羽根田実が就任
		5	28	◆ 桜美林大学大学教育開発センター設立
		12	1	◆ 「桜美林資料展示室」開室
		12		◆ 境川研修施設跡地にフライト・オペレーションコースの学生寮「啜啄寮」竣工 ◆ フライト・オペレーションコース開設 ● 大学準硬式野球部から硬式野球部へ移行

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
2009	平成21	4	3	◆ モンゴル文化教育大学(モンゴル)との学術交流協定締結
		4		◆ 韓国語と韓国文化の普及活動と教育および韓国への留学等の支援を目的とした「桜美林大学世宗学堂」開設(2007年11月、韓国国立国語院と本学との間に締結された業務協定による)
		4		◆ 大学院国際学研究科に国際協力専攻(修)、経営学研究科経営学専攻(修)、言語教育研究科日本語教育専攻(修)、英語教育専攻(修)、心理学研究科臨床心理学専攻(修)、健康心理学専攻(修)設置認可。国際学研究科環太平洋地域文化専攻(博)、言語教育専攻(修)、人間科学専攻(修)募集停止
		4		◆ 大学院国際学研究科国際関係専攻(博)を国際人文社会科学専攻(博)に改称
		5		◆ スタンフォード大学(米国)と学術協定を締結、スタンフォード大学内に桜美林大学研究スペースが設置される
		6	28	● 第21回全国大学弓道選抜大会で女子団体優勝(昨年に続く2連覇・3度目の優勝) ◆ 桜美林大学からの留学生をサポートする「桜美林大学北京事務所」設置
2010	平成22	3		◆ 高校野球部屋内練習場完成
		5		◆ 桜美林大学多摩アカデミーヒルズ開設
		5		◆ 桜美林学園の北米における教育・文化交流の拠点として、非営利団体「桜美林学園アメリカ財団(OGFA:Obirin Gakuen Foundation of America)」発足
		6	14	◆ ネルソンマルボロ工科大学(ニュージーランド)との学術交流協定締結
		8	11	● 第58回全日本学生弓道選手権大会団体戦で女子優勝
		8		◆ 国際寮(PFCII)竣工
10	30	◆ 大学祭に合わせて第1回ホームカミングデーを開催		
11	23	● 第34回全日本学生弓道王座決定戦(王座)で女子4度目の優勝		
2011	平成23	2	4	◆ オスロ大学(ノルウェー)との学術交流協定締結
		3		◆ (財)大学基準協会の外部評価様式『自己点検・評価報告書』を参考にした『桜美林大学 自己点検・評価報告書2010』を発行
		4		◆ 大学に学生の社会貢献活動やボランティア活動を支援する「サービラーニングセンター」を開設。当初は2012年の開設予定だったが、東日本大震災を受け学生の被災地ボランティア支援などの必要性から1年前倒しの開設となった
		5	28	◆ 桜美林学園創立90周年祝賀会
		8	9	◆ 提携校であるモンゴル文化教育大学内に「桜美林大学ウランバートル事務所」を開設
		11	19	◆ 桜美林大学野球部の拠点となる球場「J. F. OBERLIN BASEBALLFIELD」が町田市上小山田町に完成。漢陽大学(韓国)との親善試合が行われた
12	8	◆ 大学文学部(総合文化学科)、経営政策学部(ビジネスマネジメント学科)廃止		
2012	平成24	3	31	◆ 大学文学部(中国語中国文学科)を廃止
		4	1	◆ 第6代学園長、大学総長に佐藤東洋士が就任
		4	1	◆ 第4代学長に三谷高康が就任
		4	1	◆ 相模原市が美術展を企画できる人材を育成する実験施設「アートラボはしもと」の運営開始。本学を含む、女子美大、多摩美大、東京造形大の4大学と協定
		4		● ソングリーディング部CREAM、世界選手権大会(IASF WORLDSクラブチーム選手権Open Jazz部門)優勝(Jazz部門で日本が優勝するのは初)
		8	14	◆ ブラネット淵野辺キャンパスを、災害時に提供する協定を相模原市と締結
10	13	◆ アメリカ国際大学-バンガラデシュ(バンガラデシュ)との学術交流協定締結		
10		◆ 公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価受審に伴い『桜美林大学 平成24年度認証評価報告書』を発行。適合認定		
11	26	◆ アッパーオーストラリア応用科学大学(オーストラリア)との学術交流協定締結		

学園の沿革 (略年表)

●安三 ●郁子 ◆学園全体 ◆短大・大学 ◆大学院 ◆中高 ◆幼稚園 ●学生活動

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
2013	平成25	1	16	◆ 韓東大学(中国)との学術交流協定締結
		3		◆ 国際学研究所人間科学専攻(修)廃止
		4	1	◆ 大学総合文化学群を芸術文化学群に改称
		4	1	◆ 第10代中学校長、第8代高等学校長に大越孝が就任
		4	1	◆ 幼稚園、モンテッソーリ教育専用施設として1クラス全員で活動可能な「お仕事のおうち」を開設(これまでの「お仕事の部屋」を発展させ、隣接建物を改装設置)
		4	13	● 清水安三記念館開館(2011年開設)。高島市新旭町に「清水安三先生顕彰会」発足
		4	24	◆ アクデニッツ大学(トルコ)との学術交流協定締結
		4	30	◆ 大学文学部(英語英米文学科、健康心理学科)、国際学部廃止
		4		◆ 第二国際寮(PFCIII)、常盤館本館竣工
		4		◆ スポーツ推進センター設立
		4		● 陸上競技部に駆伝チームを発足
		8	19	◆ 順天梅山女子高等学校(韓国)と「交流協定書」を締結
		10	25	◆ カリフォルニア州立大学モントレーベイ(米国)との学術交流協定締結
		11	23	● 大学弓道部、男子団体第61回全日本学生弓道王座決定戦(王座)初優勝
		12	21	◆ 高校吹奏楽部、順天梅山高等学校(韓国)訪問、交流演奏会開催(12月21日～24日)
12	24	◆ 大学経済学部(経済学科)を廃止		
2014	平成26	1	19	● チアダンス世界大学選手権World University Cheerleading Championship(WUCC)ソングリーダーイング部Bチーム「CREAM」がPOM部門優勝
		3		◆ 国際学研究所言語教育専攻(修)、大学アドミニストレーション専攻(修)廃止。国際学研究所観太平洋地域文化専攻(博)、老年学専攻(修)廃止。国際学研究所老年学専攻(博)廃止
		6	11	◆ IAUP(世界大学総長協会)総会にて佐藤東洋士桜美林学園長・大学総長が新会長に選出される
		7	26	◆ 桜美林大学第1回卒業生教員研究交流会開催
		9	27	◆ 桜美林大学孔子学院創立10周年を記念して2014年9月27日を「孔子学院の日」と設定
		11	18	◆ 相模原市は本学を含む、青山学院大学、麻布大学、和泉短期大学、女子美術大学の市内の5大学と包括連携を目的とした協定を締結
2015	平成27	2	15	◆ 高校吹奏楽部が一般社団法人日本マーチングバンド協会関東支部の推薦を受け、第14回マーチング・ステージ全国大会に出場
		3	26	◆ 卒業生を含む有志生徒119名が宮城県石巻市で被災地復興支援活動を行う(3月26日～28日)
		4	1	◆ 大学文学部(言語コミュニケーション学科)廃止
		6	9	◆ 独立行政法人国際協力機構(JICA)のボランティア事業に桜美林大学学生を派遣する覚書署名式が行われる。翌年の2月から5年間、毎年約1か月桜美林大学野球部員(12名～15名程度)を中米コスタリカへ派遣
		9	1	◆ 桜美林大学四谷キャンパスが千駄ヶ谷へ移転
2016	平成28	3		◆ フライト・オペレーションコースが多摩アカデミーヒルズに移転
		4	1	◆ 大学にグローバル・コミュニケーション学群(グローバル・コミュニケーション学類)設置認可。同年4月開設
		6		◆ 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の大学機関別選抜評価受審に伴い『大学機関別選抜評価自己評価書』を発行。適合認定
		9	13	◆ 独立行政法人都市再生機構東日本賃貸住宅本部とUR賃貸住宅の活性化等の推進に係る協定書を締結
		10	23	● 大学野球部、首都大学野球・秋季リーグ戦初優勝
		10	27	● お茶の水女子大学に人文社会科学の諸分野において顕著な業績を挙げた女性を顕彰することを目的とした「小泉郁子賞」が創設される
		11	25	◆ 独立行政法人都市再生機構(UR)が所有の東京都町田市内にある団地活性化の推進等について相互に連携協力を図りながら推進することに合意、協定を締結

西暦	和暦	月	日	学園の沿革
2017	平成29	1	31	◆ ウェブスター大学(米国)との学術交流協定締結
		3	23	◆ 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施した「大学機関別選抜評価」で最高評価を受ける
		4	21	◆ 桜美林中学・高等学校が東京都内の中高一貫校として11番目となる「ユネスコスクール」への加盟が正式に認められる
		4	29	◆ 佐藤東洋士理事長が旭日重光章を受章
		7		◆ 長野県北部・白馬山麓に「白馬シーズンスポーツキャンパス(白馬SSC)」開設
		7		◆ 紫雲館(弓道場)竣工
		8	5	◆ 多摩市少年野球連盟主催・第1回桜美林学園杯親善野球大会開催(8月5日、6日、11日)
		8	5	◆ 中学高校美術部、第67回学展で最優秀学校賞
		8	12	● 全日本学生弓道選手権大会で桜美林大学弓道部女子が優勝(8月12日～15日)
		10	1	◆ 第6代幼稚園長に志村望が就任
10	6	◆ 桜美林中学・高等学校とシンガポール日本人学校が学校教育提携(教員派遣に関する協定)調印式を行う		
2018	平成30	4	1	◆ 第5代学長に畑山浩昭が就任
		4		◆ 学園史編さん室設置
		7	26	◆ 卒業生・在校生・桜美林大学の発展を目的とした「桜美林大学校友会」が発足
		12	7	◆ 桜美林大学野球場に隣接する上小山田室内練習場が完成
2019	平成31 令和1	4		◆ 新宿キャンパスを開設
		4		◆ 大学院経営学研究科が新宿キャンパスへ移転、MBAプログラムが新設される
		6	15	● 第49回全関東学生弓道選手権大会で桜美林大学弓道部男子が団体戦で9年ぶり2度目の優勝
		6		◆ 公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価受審に伴い『令和元年度 大学機関別認証評価 自己点検・評価書』を発行。適合認定
		8	4	◆ 全国高等学校総合文化祭2020こうち総文プレ大会軽音楽部門に東京都を代表して桜美林高校軽音楽部「Toy cleanse」が出演、最優秀賞(日本一)を受賞
		9		◆ 桜美林大学ポジティブ心理学実践研究所設置
10		◆ 桜美林大学日中ビジネス研究所設置		
11	9	● 天皇陛下御即位を祝う国民祭典にて、大学サークル「桜風エイサー琉球風車」が演舞し、翌2020年2月23日に天皇陛下御即位奉祝委員会、天皇陛下御即位奉祝国会議員連盟より感謝状が贈られる		
2020	令和2	3	30	◆ 東京都住宅供給公社と地域コミュニティの活性化および学生の人材育成を目的とした連携協定を締結
		3		◆ 外国語教育・テスト研究開発センター設置
		4	1	◆ 大学航空・マネジメント学群(航空・マネジメント学類)設置認可。同月開設
		4		◆ 東京ひなたやまキャンパス開設、芸術文化学群が東京ひなたやまキャンパスへ移転
		4		◆ 社会福祉法人清水安三福祉会を設立、滋賀県高島市に地域密着型介護老人福祉施設「桜美林シューレ高島」(特別養護老人ホーム)を開設
		6	1	◆ 佐藤東洋士学園長・理事長が私立大学協会会長に選出される
		9		◆ 桜美林大学臨床心理士養成実践研究所設置
		10	18	◆ 佐藤東洋士学園長・理事長が召天
		10	28	◆ JA町田市(町田市農業協同組合)との産学連携協定を締結
11	6	◆ ビクトリア大学(カナダ)との学術交流協定締結		
11	9	◆ 第8代理事長に大越孝が就任		
2021	令和3	3	31	◆ 老実館食堂が閉鎖
		4	1	◆ 第9代理事長に小池一夫が就任
		4	1	◆ 桜美林大学大学院国際学術研究所開設。これに伴い、国際学研究所、老年学研究科、大学アドミニストレーション研究科(通信教育課程)、経営学研究科、言語教育研究科、心理学研究科の募集停止